

特集にあたって

音響技術では、No.152(2010年12月発刊)「スピーチプライバシー」で、オフィスや会議室をはじめとする人が集う場所での会話情報保護についての特集があった。また、No.171(2015年9月発刊)にて「最近のオフィスに求められる音・振動環境」で、オフィスのハード面に求められる性能・規準など事務所建築設計や施工のための特集があった。

近年、労働環境におけるIT化、働き方改革、生産性向上などが話題となっている。それらの話題に伴ってオフィスのあり方について、様々な提案がされている。

その中でオフィスワークといっても様々な知的活動があり、それらに求められる環境も異なっている。

本号では、オフィス内の環境、コミュニケーションにおいて重要な聴覚や発話、近年話題となっているスピーチプライバシーの測定方法、よりよい音環境にするためのオフィスの事例や、環境測定結果について紹介いただいた。

【1. 総論】

「オフィスに求められる環境について」では、快適なオフィスにするための温熱・音・空気・光環境の守るべき基準等を概説いただき、それらの快適性をデザインで確保した事例について示していただいた。「オフィスの音環境と働きやすさ」では、オフィスの音環境の変遷と個人の知的活動および複数人での知的創造活動について解説いただいた。

【2. 聴覚と音声】

オフィスでの会話によるコミュニケーションが、重要な場合もあるが、知的生産性の妨げとなる場合もある。本稿では、聴覚の機構、聴覚が持っている不思議な現象、発話について解説いただいた。「聴覚生理学概論」では、人間の聴覚の生理学的機構を解説いただいた。「カクテルパーティ効果」では、騒々しい空間の中で複数の無関係な音を無視して興味のある音を選択的に聴取することができる現象について解説いただいた。「室内の音環境と発話レベル」では、オフィス内の音環境が人の発話に及ぼす影響を調べた検討事例を紹介いただいた。

【3. 測定評価・規準】

オフィス内の快適な音環境として整えるべきベースは様々な基準があり、測定や制御も可能となってきている。しかし、発話による会話音については、スピー

チプライバシー保護を目的として様々な評価がされている。そこで、発話やスピーチプライバシーに関する評価方法、測定方法等について解説いただいた。

「オープンプランオフィスにおける執務時の会話漏洩による妨害と作業性評価に関する物理量の検討」については、会話漏洩が知的生産性に及ぼす影響について考察いただいた。「音圧レベルの傾きの統計量に着目したスピーチプライバシーの評価」については、評価方法が難しいスピーチプライバシーの物理的評価指標の検討例を紹介いただいた。「同一空間におけるスピーチプライバシー保護のためのABCDルール」について、各対策の効果と予測方法について述べていただいた。

【4. 事例・調査結果】

「オフィスの音環境の実測調査と経年変化」は1980年代から現代までのオフィスの音環境の変化についての貴重なデータをお示しいただいた。「オフィスの音環境におけるワーカーの判断要因に関する検討」では、創造性の高い新しい環境を生み出すオフィス環境を検討した結果をお示しいただいた。「オープンプランオフィスの室内音響測定」、「近年の環境志向オフィスの音環境について」では、実際のオフィスの測定結果をお示しいただいた。「スピーチプライバシーの実施例」「オフィスの音環境対策」では、スピーチプライバシー保護に関する事例を紹介いただいた。「テレビ会議の音響について」「オフィスのBGMの効果について」は、近年導入が進みつつあるテレビ会議やBGMについて音環境の面から解説いただいた。

このように、音環境の点からオフィスを快適にするためには、様々な点を考慮する必要がある。特に、室内の静粛性を保つことは必要最低限であるが、オフィスワーカーの生産性向上をするためには、室内で発生した音の制御が重要である。しかしながら室内で発生した音、特に会話については、重要なテーマとなることが示唆される。本特集が、快適なオフィスの設計の一助となれば幸いである。

(編集担当 岡本健久(文責) 田中学)